

2013年3月25日、東京地裁で自転車走行中に前輪が外れて転倒し障害が残った被害者が自転車の販売元に損害賠償を求めた裁判の判決がありました。

イタリア自転車で前輪脱落、欠陥認め 1.89 億円賠償命令

東京地裁、輸入元に



イタリアの「ビアンキ」ブランドの自転車で走行中に前輪が外れて転倒し障害が残ったとして、茨城県△△市の元会社経営、●●さん（63）側が輸入元のサイクルヨーロッパジャパン（東京）に計約2億4千万円の損害賠償を求めた訴訟の判決で、東京地裁は25日、約1億8900万円の支払いを命じた。製造物責任法上の欠陥があったと認めた。

白井幸夫裁判長は目撃証言などから自転車のサスペンションが分離し、前輪が脱落したと事故原因を認定。

「購入から約6年4カ月が経過していることやメンテナンスの状況を考慮しても、通常備えるべき安全性を欠いていた」と判断した。

判決はサスペンション分離の原因を「内部のスプリングが腐食して破断した」と推測したが、製造物責任法が定める欠陥については詳細な構造上の問題まで立証する必要はないと指摘。

損害を介護費用約6500万円、逸失利益約5100万円などと算定し、購入から一度も点検を受けていなかったことによる過失相殺は1割にとどめた。

原告の●●さん側によると、同種事故は国内外で6件発生。台湾の業者が製造した同型のサスペンションは他社でも使われており、国内で推計10万台分が出回っているという。

判決によると、原告の●●さんは2002年に自転車を購入。08年8月に自転車で出勤中、前のめりに転倒、頸椎（けいつい）を損傷し首から下がほぼまひする障害を負った。

サイクルヨーロッパジャパンは「主張が認められず、誠に残念だ」とのコメントを出した。

日経新聞より



自転車破損事故を防ぐために自転車のどの箇所をチェックしたらよいでしょうか？



■前ホークとハンドルを正しい手順で固定化したか？

ハンドルと前ホークを誤った手順で固定すると軸受け部にガタつきが生じることがあります。この状態で走行すると前ホークや軸受け部のベアリングが破損することがあります。走行中に、これらの部品が破損すると路上に投げ出されたり、ハンドル操作に支障をきたしたりします。前ホークは正しい手順でしっかりと固定しましょう。

■サドルは正しく固定化したか？

サドルとシートポストの多くは、ボルト1本または2本で固定されています。サドルを固定するボルトの締め付け正しく固定していないとサドルが緩んで動いてしまいます。走行中にサドルの固定が緩み、上下角度がずれた場合、転倒することが考えられ危険です。サドルを固定するボルトの締め付けを正しくきつく固定しましょう。

**■ハブは正しく固定化したか？**

スポーツ車は、フレームから車輪の着脱を工具を使用しないで行うことができるクイックリリースハブという機構を採用しています。これは調整ナットを適切に締め付けた後に、カムレバーを閉じることで車輪を固定します。正しく固定しないで走行すると、やがて外れて車輪が脱落するおそれがありますので、乗車前にはタイヤの上部を数回下に強くたたいて車輪が緩んだり外れたりしないことを確認しましょう。

■ディレーラハンガーの曲がり要注意

最近の自転車はディレーラハンガーを介してリヤディレーラが取り付けられることが多くなっています。転倒などによってディレーラハンガーが曲がった状態のまま変速操作したりすると後車輪のスポークが接触したり、リヤディレーラが後車輪に巻き込まれることがあります。本格的な走行をする前には低速走行をして一通りの変速操作を試して、リヤディレーラが後車輪に接触していないか確認をしましょう。



自転車に乗る前にどんな点検をしたらよいでしょうか？



前ブレーキを握ったまま車体を前後に押し、ガタつきがないかを点検しましょう。

サドルをもって左右前後に動かし、ガタつきがないかを確認しましょう。

ハンドルと前車輪をひねるように力を加えてもずれないことを点検しましょう。

タイヤの上部を数回下に強く叩いて車輪がゆるんだり外れたりしないかを点検しましょう。

一通りの変速操作を試して、リヤディレーラが後車輪に接触しないことを点検しましょう。

